

## Ⅱ. 調査結果の要約

# 調査結果のまとめ

## 【飼育率・飼育頭数について】

### 1. 現在飼育率、平均飼育頭数、飼育頭数、飼育意向 ……P.17~25

- ・犬は、飼育頭数・飼育率・飼育意向いずれも減少。特に、単身女性や既婚子なし女性の飼育率低下が続く。飼育意向は、単身者を中心に低下が続く。
- ・猫は、飼育頭数・飼育率が増加。単身60-70代女性や既婚子あり20-30代男性の飼育率が伸びている。飼育意向は、犬同様に低下。
- ・新規飼育者は、犬がわずかに減少、猫は昨年から増加。ともに新型コロナ前よりも高い頭数が続いている。

## 【種類および飼育場所、主食のフードタイプについて】 ……P.26,76

1.種類： 犬は「純血」が86.4%。猫は「純血」が18.5%で、2020年と同水準。

2.飼育場所： 犬は「散歩・外出時以外は室内」が経年で増加。猫は「室内のみ」が多数を占め、2019年以降増加傾向。

3.フード： 犬猫ともに主食に占める割合は「ドライタイプ」が7割以上となっており2020年と変わらない。

## 【新型コロナウイルス流行による飼育への影響】

### 1. 新型コロナウイルス流行後のペット飼育開始がもたらした効果 ……P.43

- ・新型コロナ後に飼育し始めた人に特徴的な影響は、  
犬飼育者：「心穏やかに過ごせる日々が増えた」、猫飼育者：「毎日の生活が楽になった」。

### 2. ペットとの生活の変化 ……P.44

- ・「在宅時間」が増えたほか、「ペットと過ごす時間」が増え、「ペットを癒し」と感じる人も増えている。

## 【ペットと飼い主の関係性の変化】

### 1. 生活に喜びを与えてくれる存在として ……P.50,51

- ・犬の場合は「2位」、猫の場合は「1位」。飼い主にとって、ペットの存在は非常に重要な存在である。
- ・特に、40-50代や、単身、未婚親同居者にとってその特徴は顕著。

- ✓ 犬の飼育率、飼育頭数は今年も低下が続き、猫の飼育率、飼育頭数は増加となった。
- ✓ しかしながら、新規頭数については、新型コロナ前よりも高い頭数が続いている。  
特に、新型コロナ後飼育開始者にとって、ペット飼育によるポジティブな影響が、心理面に対して強く表れている。  
新型コロナを契機に、ペットの存在は社会にとって、これまで以上に重要な存在になっていくと考えれる。
- ✓ 犬においては、単身者の飼育意向低下が続くなど、阻害要因の構造は変わらないものがあるが、  
飼い主にとってペットとは、家族と同等かそれ以上の喜びをもたらしてくれる重要な存在である。  
ペットと生活する日常には、単なる便利・不便という考え方では到底得られない価値があることに、改めて着目がなされるべきであろう。